巻　頭　言

昇降機・ビルシステム特集に寄せて

ビル事業部長
二階堂　毅

間もなく21世紀の到来であるが，高齢化・高福祉化の進展，環境保全意識の高まりなど，昇降機・ビルシステム事業を取り巻く状況は大きく変化している。

まず，高齢化・高福祉化の進展だが，21世紀の初頭には日本では65歳以上の高齢者が人口の約25%を占めると言われている。このような超高齢化社会における居住環境は，現在よりもより快適でより安全であることが求められる。さらに，高齢者・障害者と健常者が区別なく社会に積極的に参加しはつらつ(溌剌)と活動できる環境の整備が必要である。

建物内の縦の移動手段として，昇降機は重要な役割を担っている。しかし，事務所ビルなどの一般ビルや６階建て以上のマンションや共同住宅はほとんど昇降機が設置されているが，５階建て以下の建物は設置率約20%と極めて低い。低層階建物，駅舎，個人住宅など昇降機設置要求の高まりに対応し，中低層向け住宅エレベーター“メルワイド”，駅用直角二方向出入口エレベーターなどの製品を開発し普及を推進することにより，縦の移動手段整備の一翼を担っていきたい。

加えて，開発コンセプトを“バリヤフリー”から“ユニバーサルデザイン”へ発展拡大させ，高齢者・障害者・健常者などすべての人に優しいデザインを備えた製品により，垂直移動の利便性向上を図りたい。

また，安全面では多機能化や用途の多様化が進んだセキュリティシステムの需要が増加しているが，指紋照合装置などの個人識別システムの普及により，安全な社会実現に尽力したい。

次に環境保全の問題であるが，近年，この問題には大きな関心が寄せられ，特に地球温暖化防止の観点から一層の省エネルギー化が各分野に求められている。

昇降機では，当社は世界に先駆けてエレベーター用インバータ制御技術を開発し実用化に成功した。また，近年では，高速エレベーター用の希土類永久磁石式電動機を業界で初めて開発した。1998年秋には，省エネルギー・省資源・省スペースの要求に対応し，機械室レスエレベーターと勾配35°のエスカレーターを発売するとともに，モダニゼーション事業に注力する。

ビルシステムでは，イントラネット応用による管理実施と熱源需要予測，最適運転計画などのエネルギー管理機能強化により，省エネルギー・省人化を実現した統合ビルオートメーションシステムを発売した。

高効率化技術の進展によって，昇降機・ビルシステムの１台の消費エネルギーはごくわず(僅)かになったが，日本と世界各国で稼働している製品合計の消費エネルギーを考えると，更なる省エネルギー化は一層重要視されるであろう。当社は最新技術を駆使して業界をリードしてきたが，今後とも高効率・高性能の製品を追求していきたい。

また，環境問題ではリサイクルも課題であるが，ホームエレベーターで実施したように，リサイクル性の向上した材料を適用するなど，この点も取組み強化を図りたい。

社会の変化に対応し要求にこたえるため，最新技術の開発のみならず，本質的ニーズの把握によって魅力ある製品を世に送り出し，社会に貢献したいと考えている。

皆様方の暖かいご支援をお願いしたい。